

2016年2月15日

非血縁者間骨髄移植・採取認定施設  
移植認定診療科連絡責任医師 各位

(公財) 日本骨髄バンク  
医療委員会

**骨髄液の血漿除去処理における遠心分離の際に  
骨髄液バッグを破損した事例について**

この度、血漿除去のために骨髄液を4つのバッグに分注して遠心分離を行ったところ、4つのバッグのうち1つが破損した事例が発生いたしました。

当該施設からは、遠心分離時、バケットに重量バランスのため、当該バッグと一緒にプラスチックコネクターがついた状態の空の分離バッグを入れたが、このプラスチックコネクターの鋭利な部分が当該バッグに当たり、バッグが破損した可能性が示唆されております。以上、再発防止の観点から、情報提供をいたします（詳細は別添資料をご参照ください）。

また、過去に報告されました事例については、当法人ホームページに掲載しておりますので、併せてご確認くださいませようお願いいたします。

○当法人ホームページ＞医師の方へ＞患者主治医の方へ＞医師宛通知文

以上

＜問い合わせ先＞

公益財団法人 日本骨髄バンク 移植調整部

TEL 03-5280-4771 FAX 03-5280-3856

以下は移植施設からの報告です。(全文掲載)

---

#### 1. 経過

骨髓液の血漿除去処理における、遠心分離の際、4 バッグに小分けしたうちの1 バッグが破損し、内容物汚染の可能性があったため、移植に用いなかった。

#### 2. 考えられる原因

- 1) 遠心分離時、バケットに重量バランスのため、当該バッグと一緒にプラスチックコネクターがついた状態の空の分離バッグを入れた。遠心により、プラスチックコネクターの鋭利な部分が当該バッグに当たり、バッグが破損したと思われる(写真参照)。
- 2) 分離バッグとして、通常のバッグより薄い血小板用のバッグを使用した。

#### 3. 再発防止策などの対策

- 1) 重量バランスには、プラスチックなど、固い部分を全て取り外した分離バッグをバランス専用として準備する。
- 2) 骨髓処理には必ず塩化ビニル製の赤血球用分離バッグを使用する。

#### 4. 患者さんへの説明

骨髓液を輸注する前に、細胞が損失した件をご両親に説明した。患者さんとバンクドナーの血液型が異なるため、ドナーの骨髓液から血漿を除去する処理を行う必要があり、その処置を行う過程で細胞の損失があった。輸注される細胞数はやや少なめとなり、生着が遅くなる可能性があるが、生着不全を起こす細胞数ではないと思われる。ご両親は、具体的にどのような過程で細胞が損失したのかなど細胞損失に関して気にする様子はなく、ドナーさんの体調は大丈夫でしょうかとドナーさんの体調を気遣っている様子が見られた。

なお患者本人には不安を抱かせる可能性もあり、ご両親とも相談の上、現時点での説明は行わないことにした。

以上

写真1



写真1：バッグの破損箇所

写真2：破損部分の拡大写真

写真3：一緒に遠心したプラスチック  
コネクター

写真2



写真3

